

申請書やオンライン申請受領書の右端が切れないように印刷するには

申請書やオンライン申請受領書は Internet Explorer から印刷することができますが、この方法で印刷すると、抵当権設定登記の登記原因など、長い行では右端が切れてしまうことがあります。この障害は、文面全体を適当な割合で縮小して印刷することによって、回避することができます（ただし、極端に 1 行が長い場合は回避できないこともあります）。ここではその方法を示します。

Internet Explorer Ver.6 ユーザーの場合

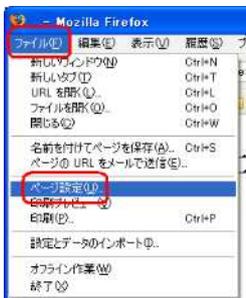
いろいろやってみましたが、Internet Explorer Ver.6 単独では不可能なようです。そこで、もうひとつ別のブラウザを使用します。

私が Get したのは Firefox です。これは無料で入手・使用できるブラウザです。下記アドレスからダウンロードできますから、ダウンロードの上インストールしてください。

<http://www.vector.co.jp/soft/winnt/net/se348605.html>

Firefox をインストールすると、一旦、Firefox が標準インターネットブラウザに指定されてしまいますが、次回 Internet Explorer を起動したときに Internet Explorer を標準ブラウザに指定するかどうかを問いつけてきますから、この時 Internet Explorer を標準ブラウザに指定すれば元に戻ります。

Firefox を起動したら、「ページ設定」を以下のように設定してください。この操作は 1 回だけしておけば、以後はその設定が引き継がれます。



ページ設定を起動するには、**ファイル(F)**→**ページ設定(U)**とクリックします

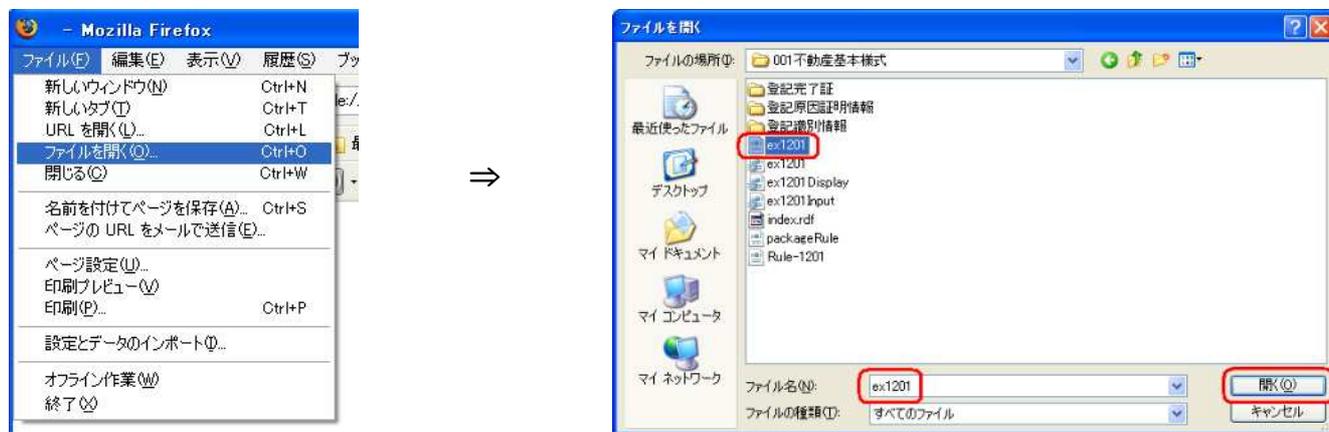


ページ設定のダイアログが表示されたら、「書式とオプション」で、「 用紙に合わせて縮小」のチェックをはずし、かつ、「拡大/縮小」の窓の中を、適当な数値に設定します。この数値は、右端まで切れずに印刷されるよう適当な数値を入れてください。希望するように印刷されるかどうかは「印刷プレビュー」(メニューバーから**ファイル(F)**→**印刷プレビュー(V)**とクリック)で確認できます。慣れないうちは試行錯誤を繰り返すことになるでしょう(左図では 50% に設定しました)。これにより、ページ全体が設定された縮小率で印刷されます。

この状態で印刷したい申請書ファイルを読み込んで印刷 (**ファイル(F)**→**印刷(P)**、ショートカットは Ctrl+P) すれば、先ほど設定した縮小率で印刷させることができます。Internet Explorer Ver.6 が標準ブラウザに指定されている場合、単に申請書ファイルをダブルクリック

しても Internet Explorer が起動してしまい、Firefox で読み込むことはできませんので、次のいずれかの操作でファイルを読み込みます。

- ①Firefox を起動し、メニューバーから「ファイル(F)」→「ファイルを開く(O)」をクリックし、「ファイルを開く」のダイアログから目的のファイル名をダブルクリックするか、シングルクリックで指定し、「開く(O)」ボタンをクリックする。

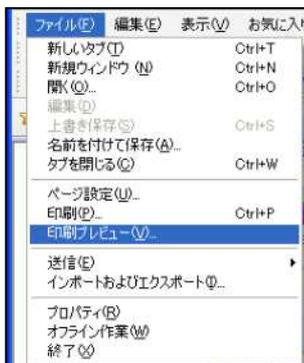


- ②デスクトップに Firefox のアイコンがある場合、印刷したいファイルのアイコンを Firefox のアイコン上にドラッグ&ドロップ（申請書ファイルのアイコンをマウスでクリックし、ボタンを押したまま「引きずって(=drag)」、Firefox のアイコン上で「落とす(=drop)」こと）する。

本当は Internet Explorer Ver.6 だけでできればよいのですが、Internet Explorer Ver.6 には縮小印刷の機能がないため、縮小印刷したいときだけ Firefox を利用するわけです。文字と図で説明するとややこしいようですが、慣れれば感覚的に操作できるようになり、それほど面倒でもありません。また、Firefox を使った場合、物件欄に部分的に罫線が引かれますが、今のところこれを解消する方法はわかりません。

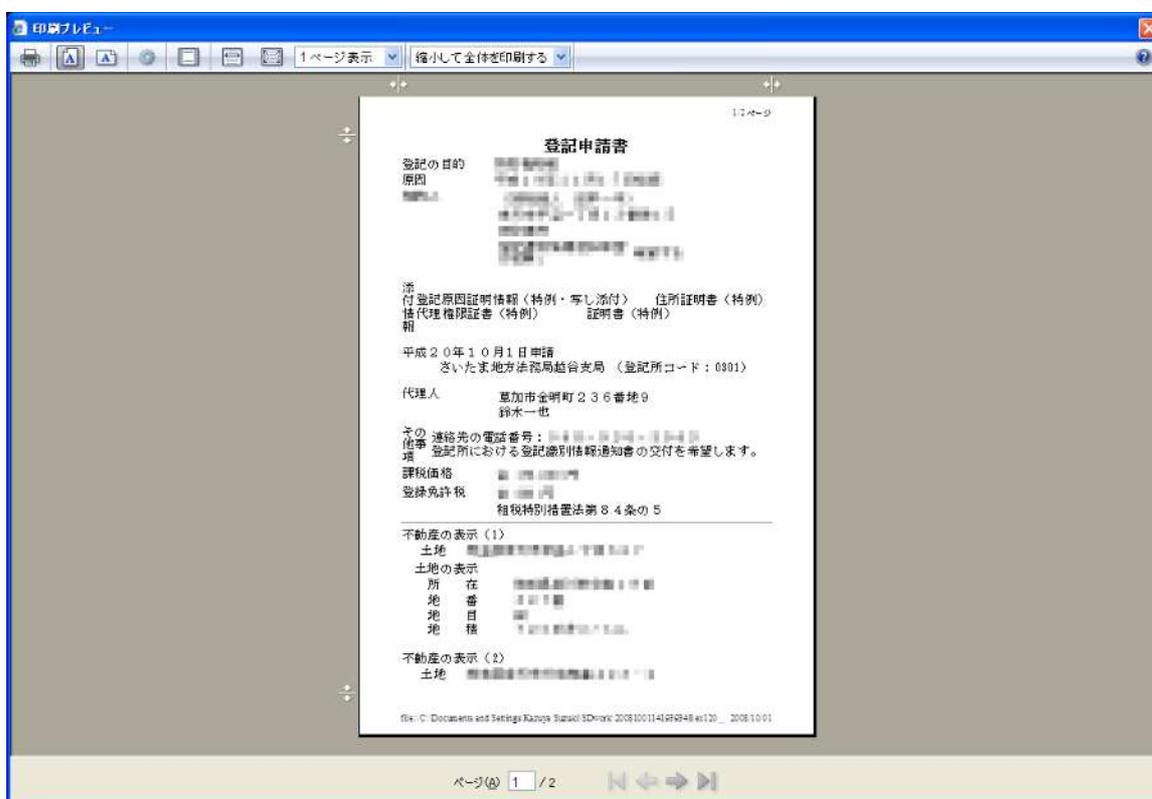
Internet Explorer Ver.7 または Ver.8 ユーザーの場合

Internet Explorer Ver.7 または Ver.8 には縮小印刷する機能があります。これは、以下の手順で実行できます。

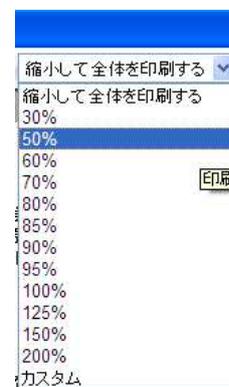
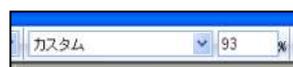


印刷したい申請書を表示させたら、印刷プレビュー画面を開きます。印刷プレビュー画面を開くには、メニューバーからファイル→印刷プレビューとクリックします。

すると、次のようにプレビュー画面が開きます。

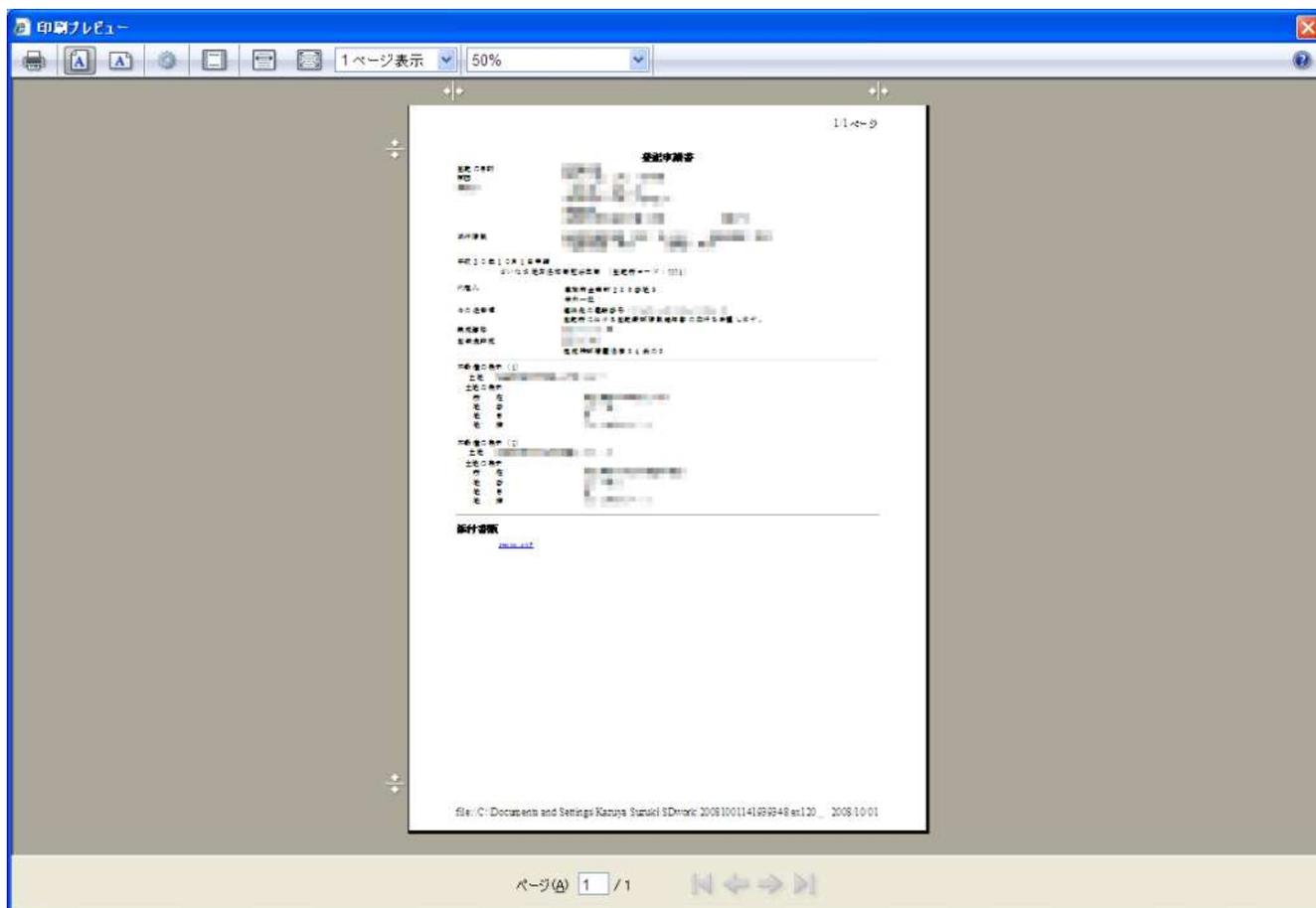


この画面で、ツールバーの  と表示されている窓の右側の  をクリックします。すると、いろいろな縮小/拡大率が表示されます。縮小/拡大率の数値を選択するとその数値に応じてプレビュー画面も変化しますから、プレビュー画面を確認しながら行右端まで表示されるような数値を選択します。表示されている縮小/拡大率以外にも、一番下の「カスタム」を選択すると右側に数値を入力できる窓が開きますから、任意の数値を入力することができます。



文字が読めなくなるほど小さい数値を指定しても行全体が表示できないときには、 のアイコンをクリックすれば印刷用紙の置き方を横置きにする指定ができますので、縮小率の調整に加えて用紙の置き方を「横置き」に指定すれば、

たいていの場合は大丈夫でしょう。なお、プレビュー画面右上端には「1/2 ページ」とか「1/3 ページ」などといった分数によるページ表示がされます。この数値の分母は、その文書全部を印刷するのに何枚の用紙が必要か、分子は現在の表示画面が何ページ目に印刷されるかを表示しています。従って、ここの表示が「1/1 ページ」と表示されるように縮小/拡大率を調整すれば1ページに収めることができます。プレビュー画面で適当な設定ができればツールバーの  のアイコンをクリックすれば表示された状態で印刷できます。



Internet Explorer Ver.6 から Ver.7 または Ver.8 へのアップグレード

以上のように Internet Explorer Ver.7 の方が操作が簡単なので、Internet Explorer Ver.6 ユーザーは Ver.7 にアップグレードすればいいじゃないかということになりますが、事はそう簡単ではありません。OSやアプリケーションをアップグレードするという行為は、実は少なからず危険を伴う行為なのです。OSやアプリケーションをアップグレードした途端に、いままでも何も問題なく動いていたシステムに障害が発生することは実は珍しいことではありません。長くパソコンを使っている方なら、何度かそういう「事故」に見舞われ、復旧させるために大変な苦勞をしたという経験を1度や2度くらいは必ずしているものです。かく言う私も、Microsoft から自動更新の通知が来たので、それに応じて Ver.7 にアップグレードした途端に障害に見舞われました。通常のホームページの閲覧などでは何も問題ないのですが、オンライン申請システムにログインしようとするとき Java エラーが出てログインできなくなりました。今までもログイン時に Java エラーが出ることもあり、その場合でも、一旦 Explorer を閉じ、再び起動しなおせば無事にログインできたのですが、今回はそれでもダメで

した。それどころか、Java 以下のオンライン申請関連ソフトを一旦アンインストールした上でインストールしなおしても症状は改善しません。その日は申請しなければならない事件を抱えていたので、少々あわてました。しかし、幸か不幸か、うちにはもう一台、「遅い遅い」代替機がありますので、それで申請することは出来ますから、それでとりあえず申請を終えてしまい、その日の仕事を終えてからゆっくり対処しようと考えて Explorer を閉じたところ、再び Microsoft から自動更新の通知が来ており、開いてみると今度は Windows XP Service Pack 3 へのアップグレード通知でした。一か八かこれを実行してみたところ、症状が改善し、正常にログインできるようになりました。

かくして、私の場合は大したことなく正常に戻りましたが、みんながみんな同じ手順で障害を解消できるわけではありません。私の場合とは逆に、Service Pack 3 にアップグレードしたら障害が発生したと言う方もいらっしゃいますから、何が起るかは「やってみなければわからない」のです。くどいようですが、現在、問題なく稼働している OS やアプリケーションをアップグレードする場合は、そのような危険があることを認識し、十分に時間に余裕があるときに行ってください。私は、新しい OS やアプリケーションにアップグレードすべきかどうかは、「どうしても新版でないと実現できない機能があり、どうしてもそれを使わなければならないとき以外は避けておいたほうがよい」と考えていますし、周りにもそうアドバイスしています。

復元ポイントの作成とシステムの復元

上記の危険を踏まえてもなお OS やアプリケーションをアップグレードしたい場合、最悪の場合に備えて「復元ポイント」を作成しておくことを強くお勧めします。復元ポイントとは、そのポイントまでパソコンの設定を戻すことのできる基準点のことです。OS やアプリケーションをアップグレードした結果、障害が発生してしまった場合でも、復元ポイントまでシステムを復元すれば障害を解消することができます。復元ポイントは自動的に設定される場合もありますが、OS やアプリケーションをアップグレードするような危険を伴う行為をする場合には、アップグレードを実行する前に手動で復元ポイントを設定しておきます。復元ポイントの設定方法及び復元の実行方法は別稿「復元ポイントの作成とシステムの復元」で説明します。